



伊藤正興
(チャレンジはんだ)



子どもたちの居場所づくり

問 児童センター機能の移行の決定に至るまでの経緯とその理由を教えてください。

すべての児童が安心・安全に過ごせる環境の整備が必要と考え、「放課後子ども教室」「放課後児童クラブ」「児童センター」の機能を集約して、放課後の居場所の開設を目指すことになりました。移行決定の経緯は第7次総合計画にて小学校内に子ども居場所を整備し、地域に適した施設の集約・複合化を進めることとしており、小学校建替時に統合することになりました。

問 児童センター機能の移行に向けて放課後ひろばと並走期間の設定を提案しますがいかがですか。



小学校の建替に合わせて児童センター機能を学校内に移転し、新しくより良い環境が用意されるので放課後ひろばと並走期間を設けることは考えていません。

問 現在の児童センターの利用者はこれまでどおり放課後ひろばを利用できますか。また、地域の特性と実績に合わせた運用が必要と考えますがいかがですか。

乳幼児や未就園児は地域子育て支援拠点やこども園に併設されている子育て支援室などを案内していきます。利用者の範囲については柔軟な運用が必要と考えており、地域のニーズの把握に努め、事業を進めていきます。



坂井美穂
(公明党)



子宮頸がんから子宮と命を守る取組み

問 対象年齢の女子の接種人数とキャッチアップ接種の対象者の接種人数はどのようですか。

令和元年度の定期接種者数7人、接種率は0.3%に対して、積極的勧奨再開後の令和5年度は定期接種者数319人、接種率13.8%と大幅に上昇していますが、依然未接種者が多いです。

問 子宮頸がん検診の受診率と年代別の傾向はどのようですか。

令和5年度は18.6%です。20代前半の受診は少ないです。

子宮頸がん検診を受診していない女性に、HPV感染状況を調べられる検査キットや着用したままで受診ができる、不織布パンツを配布してはどうですか。

半田市では実施する予定はありません。

問 HPV検査を半田市においても導入すべきと考えますがいかがですか。

今後、HPV検査の導入の可否について検討します。

問 中学校でのがん教育やプレコンセプションケアにおいて、継続的に子宮頸がんの予防についての教育を推進する仕組みを作りたいと思いますが、いかがですか。

取組みがさらに充実したものになるよう努め、SNSなどを活用した情報発信にも積極的に取組みます。



山本裕介
(創造みらい半田)



まちの顔づくり・中心市街地エリアの魅力を高める仕組みづくり

問 半田市中心市街地コンセプトブックと夢の未来図は何を目的として作成されましたか。

まちに関わる人が、自分事としてまちづくりについて、考えていただく必要があります。ワークショップを通じて、まずは中心市街地活性化に向けた気運の醸成を図り、そこでの成果である、みんなで思い描いた未来イメージをPRすることで、今後自ら主体的に動くとするプレイヤー仲間を増やしていくことです。



問 今年度作成する「中心市街地活性化基本計画」にコンセプトブックや夢の未来図はどのように活かしますか。また、知多半田駅東口ターミナルリニューアル基本構想策定のプロポーザル契約がされましたが、今後どのようなスケジュールを予定していますか。

コンセプトブックや夢の未来図すべてを実現させるものではありませんが、それぞれのエリアの個性や、ビジョン、コンセプト、ワークショップで出た意見を参考にし、描いた夢が1つでも多く実現できるように取組みます。知多半田駅東口ターミナルリニューアル基本構想については、多様な活用ができる魅力的な空間にするべく、交通量・利用者の分析とともに、市民ワークショップ等を開催し、令和6年度末に完成予定です。